

副理事長就任あいさつ

国産材の利用が森林を守る

鳥取県農林水産部長 西山 信一



平成23年度の食料自給率が発表され、カロリーベースで39%と前年と同率でした。政府は、自給率の様々な向上策に取り組んできましたが、十数年にわたって過去最低の40%程度の水準のままです。その要因として、米の消費が年々減っていることが大きいと分析されています。米の消費減少は、個々人の食生活の多様化などによる結果としても、その影響は我が国の水田の減少や荒廃に及んでいます。

日本の風土に適した稲作技術を持ちながら、それを活かさない残念な状況にあります。しかし、水田を守ろうと意識して、ご飯をなるべく食べている人は減多にいないと思います。

一方、木材はどうでしょう。我が国の森林面積のうち、約4割が植林された人工林です。人工林の面積を樹木の年齢別にみると、本格的に利用できる45年生以上の森林が4割を占めており、10年後には6割にまで達する見込みです。ところが、森林資源の蓄積が年々増加しているにもかかわらず、平成23年の木材自給率は27%（うち製材用材の自給率は43%）であり、国産木材はあまり使われていません。

手入れの行き届いた健全な森林には、土砂の流出を防いだり、たくさんの動植物にすみかを提供したり、渇水や洪水を緩和しながら水を育むだけでなく、CO₂をしっかりと吸収して地球温暖化対策に貢献するなど、多くの働きがあります。しかし荒れた森林ではこれらの機能がうまく発揮されません。こうした様々な機能を将来にわたって発揮させるためには、森林をきちんと整備しながら、そこから生産される木材を使っていく「植える→育てる→使う→植える」という森林の循環を促進しなければなりません。森を育てるには、木を使うことが大事なのです。

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が平成22年10月に施行されました。学校や公営住宅、病院、老人ホームなどの公共性の高い建築物を対象に、低層のものは、原則としてすべて木造化を図るなど、国、地方公共団体などが木材の利用促進に努め、そのために必要な措置を講じるというものです。鳥取県でも、公共建築物などでの地域材利用の取り組みが広がってきました。さらにこれらの動きが、民間事業者や住宅など一般建築物へ波及してほしいと思います。

経済環境は厳しい状況が続いていますが、県民の皆さん、企業、団体などの御理解と御支援を得て、息の長い緑化活動を進めたいと考えています。今後とも、緑化推進委員会の運営について、御協力をお願いします。

■平成24年度 緑の募金運動

募金運動期間

春期 平成24年3月25日(日)～5月31日(木)

秋期 平成24年9月1日(土)～10月31日(水)

国土緑化運動標語

“ひろげよう 大地うるおす 植樹の輪”



皆様の温かいご協力をお願いします。

「緑の募金」は森林の整備や緑化活動を支援し、きれいな水環境、災害の防止、きれいな空気、温暖化の防止など環境改善に役立っています。

森や緑を育てて、安全で住みよい故郷をつくるため、一人でも多くの方に「緑の募金」への温かいご協力をお願いします。

平成24年度春期緑の募金の結果

今年度の緑の募金運動は、イオン鳥取北店とイオン日吉津ショッピングセンターでの街頭募金でスタートしました。イオン鳥取北店では、鳥取市立賀露小学校みどりの少年団、日吉津ショッピングセンターでは、日吉津村立日吉津小学校みどりの少年団のみなさんに協力をしていただき、朝10時より街頭募金を始めました。時折、雪の降る寒い日でしたが、子ども達の元気な呼びかけに多くの方に募金をしていただきました。また、家庭募金、職場募金、企業募金にもご協力をいただきありがとうございました。

今年度、以下のような春期の募金結果を得ることが出来ました。

平成24年度春期募金結果は、街頭募金68万円、学校募金126万円、
家庭募金1,595万円、企業募金29万円、
職場募金246万円、その他募金50万円、
合計2,114万円

となり、対前年比の97.5%の実績を上げることが出来ました。

頂きました浄財は外部有識者による「緑の募金等運営協議会」で審査等を経た上で、緑化事業の推進に大切にに使わせていただき、皆様方の居住環境の改善等に役立たせていただきます。

ご協力いただいた県民の皆様、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。



街頭募金



第16回通常総会の開催

と き 平成24年2月13日（月）
ところ 白兔会館「らいちょうの間」

第16回通常総会を、正会員115名のうち82名（出席34名、委任状48名）の参加を得て開催しました。

総会は伊藤理事長の挨拶に続いて、来賓の藤井副知事から祝辞を頂き、その後、議長に智頭町森林組合代表理事組合長の寺坂安雄さんを選出し、議事録署名人に団体会員で鳥取県林業研究グループ連絡協議会会長の岸田鉄夫さん、個人会員の武田勇さんを選任し、議事に入りました。

第1号議案「平成23年度事業報告及び収支決算について」報告し、監査結果を大家繁博監事から報告していただき、質疑等のあと1号議案は議案どおり承認され、続いて第2号議案「平成24年度事業計画（案）及び収支予算（案）について」説明し、質疑等のあと承認されました。第3号議案「会員の入会について」説明し、了解された後続いて、その他として来年1月を目標に公益法人認定に向けてのスケジュールについて説明をしました。

緑の募金等の運営につきましては、外部有識者等の意見をお聞きしながら、一層効率的かつ適正な事業の執行に努めて参りますので、皆様方の温かいご理解、ご協力をよろしくお願いします。



役員の皆様（平成24年7月31日現在）

役 員	氏 名	所属役職名	役 員	氏 名	所属役職名
理事長	伊藤美都夫	鳥取県議会議長	理 事	藤川 昭夫	日本海テレビジョン放送(株) 代表取締役社長
副理事長	西山 信一	鳥取県農林水産部長	理 事	藤原 正	鳥取県建設業協会会長
理 事	景山 一夫	鳥取県漁業協同組合代表理事 組合長	理 事	藤原 眞澄	鳥取県山林樹苗協同組合理事長
理 事	田中 朝子	鳥取県連合婦人会会長	理 事	森下 洋一	鳥取県森林組合連合会 代表理事会長
理 事	竹内 功	鳥取県市長会会長	理 事	吉岡 利固	(株)新日本海新聞社 代表取締役社主
理 事	石 操	鳥取県町村会会長	監 事	田中 静雄	鳥取県造園建設業協会会長
理 事	高見 俊雄	鳥取県農業協同組合中央会会長	監 事	大家 繁博	鳥取県椎茸生産組合連合会会長

（所属代表等の交替で、総会時より一部役員の変更有。）

第58回鳥取県植樹祭の開催

第58回鳥取県植樹祭が5月20日（日）鳥取県、南部町・伯耆町及び本委員会の主催により、西伯郡南部町・伯耆町の「とっとり花回廊」において「育てよう 緑が奏でる 豊かな未来」を大会テーマとし、また、今回は来年度鳥取県で開催されます第64回全国植樹祭プレ大会として開催されました。

式典の始まるまでの間、伯耆町立岸本小学校みどりの少年団のみなさんが、第64回全国植樹祭マスコットキャラクター「トッキーノ」と一緒に緑の募金活動を行いました。



式典では、最初にオープニングアトラクションとして鬼面太鼓振興会による「鬼面太鼓」が披露され、参加者から盛大な拍手が送られました。

続いて開会が宣言され、みどりの少年団の皆さんの元気な入場行進と少年団の紹介、主催者挨拶、来賓紹介の後、テーマ表彰があり、第58回鳥取県植樹祭テーマ最優秀賞に米子市の服部直記さん、同優秀賞に鳥取市の稲村雅彦さんと江府町立江府中学校1年の宇田川智広さんが受賞されました。続いて、5月12日に東京でありました「みどりの感謝祭」で衆議院議長よりいただいた全国植樹祭苗木・花の引渡しがあり、南部町立会見第二

小学校の荒金海智さんと南部町立西伯小学校の西田彩音さんが平井鳥取県知事と坂本南部町長へアカマツとアジサイを渡しました。その後、代表植樹・市町村の木の植栽とお手播きが行われ、「森林・みどりへの想い」発表として、伯耆町立八郷小学校みどりの少年団の長谷川千紘さんと高原大武さん、株式会社グリーン・シャインの若手林業後継者手島慎司さんの発表が行われました。この後、第64回全国植樹祭開催のPRをキャラバン隊とトッキーノが行いました。式典終了後、場所を移動し、一般参加者による記念植樹が行われ、アカマツ、ヤブツバキなど14種、約1,500本の苗木が植栽されました。

昼食時にはアトラクションとして、南部町立西伯小学校児童による金管演奏が行われ参加者を楽しませました。また、地元特産物の販売も行われ多くの人で賑わっていました。



(社)鳥取県緑化推進委員会では記念品として苗木(サラサドウダン、ウワミズザクラ、シロヤマブキ)600本の無料配布を行い好評を得ました。また、トッキーノと一緒に緑の募金活動も行い、たくさんの方に募金をしていただきました。ありがとうございました。森林・木にふれる催しとして木工教室、第64回全国植樹祭式典音楽の採譜を行い多くの方が参加をしていました。



■ 第63回全国植樹祭が山口県で開催される

第63回全国植樹祭が平成24年5月27日(日)に山口市阿知須・きらら浜「山口きらら博記念公園スポーツ広場」を式典会場に、「育むいのち 彩りの森・光る海・碧い空・燦めきの発進」を大会テーマとして、天皇、皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、全国各地の林業関係者や地元関係者約12,600人が参加して盛大に開催されました。

式典は、プロログアトラクションとして竹楽器を演奏する県民楽団「やまぐちバンブーオーケストラ」のさわやかな演奏や、独創的なダンスパフォーマンス、感謝状贈呈などの後、天皇皇后両陛下がご到着され、式典が始まりました。



開会の言葉に続き三旗掲揚・国歌斉唱、主催者挨拶、表彰等が行われ、苗木の贈呈後、天皇皇后両陛下によるお手植え及びお手播きが行われました。

その後、代表者記念植樹や開催テーマ表現(アトラクション)、大会宣言等と続き、リレーセレモニーでは次回開催県であります本県の平井知事に植樹祭シンボルの「木製地球儀」が引き継がれ、一連の式典が終了しました。

来年春の鳥取県開催に向けて、当委員会としても緑化運動や緑の少年団の取り組みなどを引き続き支援していきたいと思っています。



■ 緑の募金贈呈式

6月4日 県議会議長室で「緑の募金贈呈式」が行われました。千代三洋工業株式会社様（贈呈者：見生多恵子社員代表、西尾孝博代表取締役社長、随行：山本義弘総合企画部長）では、社内で積極的に職場募金を呼びかけ、集まった浄財を「緑の募金」として、この度当委員会伊藤美都夫理事長（県議会議長）にご寄付を頂いたものです。ありがとうございました。



見生多恵子代表社員より伊藤美都夫理事長へ、
（左）西尾孝博代表取締役社長

6月11日 農林水産部長室で「緑の募金」贈呈式が行われました。鳥取いなばライオンズクラブ様（贈呈者：松本会長、野村第三副会長、池田委員長、谷尾担当理事）では、鳥取いなばライオンズクラブの例会（月2回開催）で会員に「緑の募金」を募り、集まった浄財を「緑の募金」として、この度当委員会西山副理事長（農林水産部長）にご寄付いただいたものです。ありがとうございました。



松本会長より西山副理事長へ

■ 学校環境緑化モデル事業完成式

ローソン緑の募金を活用して

子供達に環境教育と憩いの場が完成しました。

3月12日、倉吉市立高城小学校（吉田義校長）で学校環境緑化モデル事業の完成式が行われました。

学校環境緑化モデル事業は、（公社）国土緑化推進機構の「緑



と水の森林ファンド」事業のうち、「ローソン緑の募金」部分を財源とした助成事業で、各県の緑化推進委員会を通じて全国50の小学校に助成がなされるものです。

平成23年度は、県内では倉吉市立高城小学校が1校助成決定を受け事業に取り組みました。このほど事業が完成し、全校児童88名、教職員19名、倉吉市農林課担当者、保護者及





び地区の代表、ローソン関係者等が出席し完成式が行われました。

高城小学校は、里山に囲まれた小学校であり、学校庭園が樹木の伐採等で整備されたことにより、明るい環境となりました。芝生の周辺に花壇も作られ、児童は樹木・植物に囲まれながら、芝生の上で元気に遊ぶことができるようになりました。

環境整備を行うことで、自然への興味関心が高まること

が期待でき、憩いの場として地域の方々との交流も期待で

きます。また、環境教育・学習にも取り組んでおり、環境保全のための意欲増進を図るとともに、生活科の学習の場としても有効的な活用が期待できます。一層緑あふれる小学校となりました。

■ 緑の募金事業について

森林の恵みを感じ、森林の大切さを知る

ふなおか竹林まつり実行委員会

実行委員長 小林 孝 規



私達は、農業・農村の活性化を図るとともに森林の大切さと、併せて竹林の良さを再認識していただくため、毎年4月29日（昭和の日）に船岡竹林公園を会場に「ふなおか竹林まつり」を開催しており、今年で第17回目を迎えました。まつり当日は、約1,500人の来場者で大盛況でした。

このまつりでは、“竹林浴の里 船岡”をPRするため、タケノコ掘りやタケノコご飯の販売、竹トンボ作りや竹トンボ飛ばし大会の開催、地元の新鮮な農産物や特産品の販売等を行い、たくさんの来場

者でにぎわいました。また、竹林だけではなく森林全体の大切さを認識していただき、より身近に親しんでいただくため、苗木の無料配布、竹林公園内での記念植樹を行いました。

今回は、来年鳥取県で開催される「第64回全国植樹祭」のPRイベントとして、県内の市町村で開催される植樹事業を木彫りの「トッキーノ」をバトンに見立てリレー形式でつなぐ「リレー植樹」をふなおか竹林まつりの一環として行いました。平木八頭町長、森山八頭町会議長、八頭総合事務所竹本農林局長、前田八頭中央森林組合長、トッキーノの6名で桜の苗木2本を植樹したほか、3種類計10本の桜を園内に植樹しました。イベント開催中にトッキーノが緑の募金を来場者に呼びかけ、皆様の善意によりたくさんの募金をいただきました。

少しずつではありますが、これからもこのまつりを通して、竹林を含む森林の持つ様々な効果、良さを実感してもらい、森林の大切さを多くの方に知っていただく活動を続けていきたいと思っています。



平成24年度の助成事業・交付金事業

事業区分		事業内容	助成対象者	助成額
緑の募金事業	森林づくりの促進	植林、下刈り等の森林の整備森林での林業体験 等	市町村、学校、各種団体、緑化推進委員会支部 等	5万円以上50万円以内
	ボランティア活動の支援	森林ボランティア団体が森林整備活動を行うための経費の一部を助成する。	森林ボランティア団体	当該年度の予算の範囲内
	地域緑化の推進	地域の緑化及び地区住民の緑化意識の高揚を図り、緑づくりを促進するためのイベント、講習会等の開催	市町村、学校、各種団体、緑化推進委員会支部 等	5万円以上20万円以内
	みどりの少年団活動推進	通常の活動に加えて実施する自然・森林・緑に関わる学習活動、野外活動、奉仕活動	みどりの少年団	5万円以上10万円以内
	学校緑化推進事業	学校林等を活用した活動、学校林の活用環境整備 森林・緑に関わる学習活動	学校、学校教育を支援する団体 等	5万円以上20万円以内（委託料は助成対象事業費の50%以内とする。）
	交付金事業（家庭募金等の65%を限度に還元）	樹木の植栽、花木等の植栽、緑化関係のイベント、普及啓発活動等	市町村、学校、各種団体、緑化推進委員会支部 等	市町村の決定額の範囲内
緑と水の森林ファンタジー事業	青少年・民間活動グループ育成	森林・緑化に関する各種イベントやキャンペーンの実施	市町村、民間団体、緑化推進委員会支部 等	5万円・10万円・15万円・20万円の定額

ごあいさつ



みどりの少年団の育成等の業務を担当することになりました浜口亜希子です。

慣れないことばかりですが、精一杯努めていこうと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。



会員募集のお願い

社団法人鳥取県緑化推進委員会は、県民の皆様による「緑の募金」等を財源として、森林の整備や緑化の推進を通じて、緑豊かな住みよい県土の発展及び国際緑化に寄与することを目的として設立された団体です。

本委員会の組織運営は、正会員（県、市町村、団体、個人）及び賛助会員（企業）の皆様からの会費を主要な財源としており、県民の皆様のご理解・ご協力の上に成り立っています。

趣旨にご賛同いただける皆様のご加入を心よりお願い申し上げます。

会員年会費：個人・団体・企業 一口 1万円

お問い合わせ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220

（鳥取県農林水産部森林・林業総室内）

（社）鳥取県緑化推進委員会

電話：0857-26-7416

FAX：0857-26-8192

URL：http://www.tottori-green.or.jp